

2018年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、北米～ヨーロッパ～日本の東海上で波列パターンが卓越し、米国の東海上、ヨーロッパ、東アジア北部～日本の東海上で正偏差、カナダ東部～英国の西海上、西シベリアで負偏差となった。東シベリア海でブロッキング高気圧が見られ、カムチャツカ半島付近では負偏差となった。200 hPa 風速をみると、ユーラシア大陸では偏西風の分流が明瞭となり、日本付近では偏西風は平年の位置と比べて北寄りを流れた。海面気圧は、高緯度帯では広く負偏差となった。大西洋の亜熱帯高気圧は平年と比べて強く、太平洋の亜熱帯高気圧は、西への張り出しが平年と比べて強かった。850 hPa 気温は、東シベリア海付近、ヨーロッパ、東アジアの広い範囲で高温偏差、北米中・東部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、東アフリカ～インド洋赤道域、北太平洋中部の北緯10度～30度帯、南太平洋中部の南緯20度帯で活発、中～東部太平洋赤道域、大西洋東部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の上旬～中旬は南米～インド洋を東進したが、その後は振幅が小さくなった。対流圏上層では、ヨーロッパ～中東～南アジアで波列パターンが見られるとともに、フィリピン周辺で低気圧性循環偏差、太平洋東部では南北半球対の低気圧性循

環偏差が見られた。対流圏下層では、インド洋で南北半球対の高気圧性循環偏差、北太平洋熱帯域では西部で低気圧性循環偏差、東部で高気圧性循環偏差が見られた。海面気圧は、太平洋西部で負偏差、太平洋東部で正偏差となった。南方振動指数は+0.6だった。

世界の天候

2018年4月の世界の月平均気温偏差は+0.31°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、3番目に高い値となった。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.77°C/100年（速報値）である。

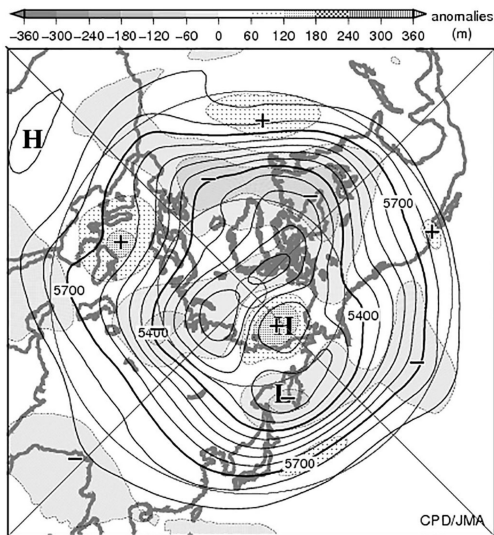
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東日本～中国中部で異常高温となった。
- ヨーロッパ及びその周辺で異常高温となり、トルコ～ヨーロッパ南部で異常少雨となった。
- 米国中西部及びその周辺で異常低温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

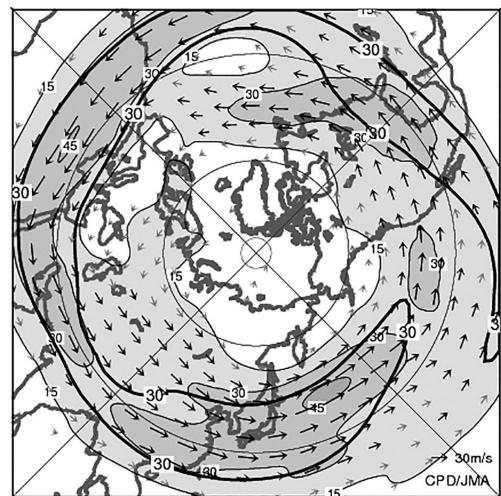
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



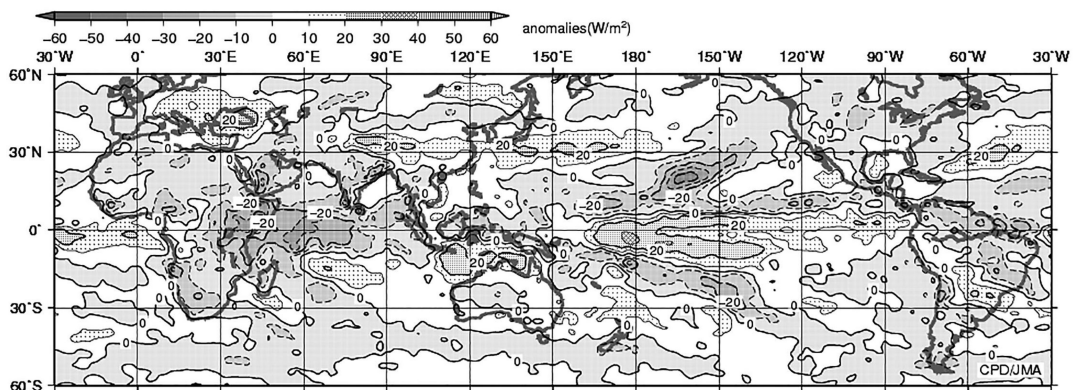
2018年4月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

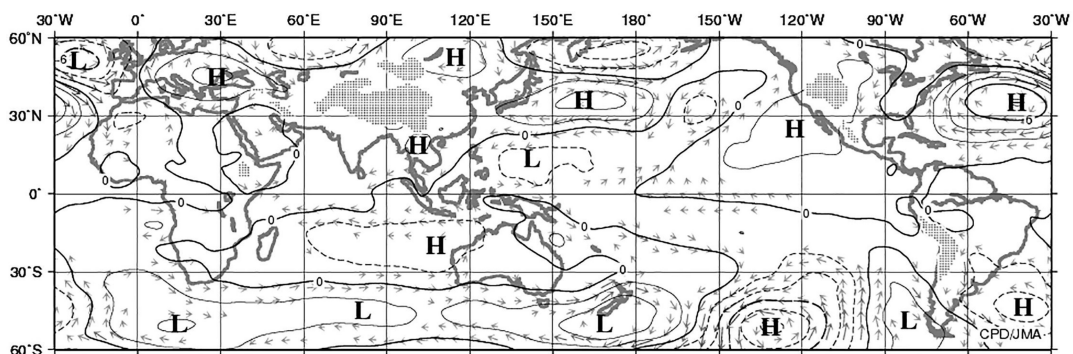


2018年4月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

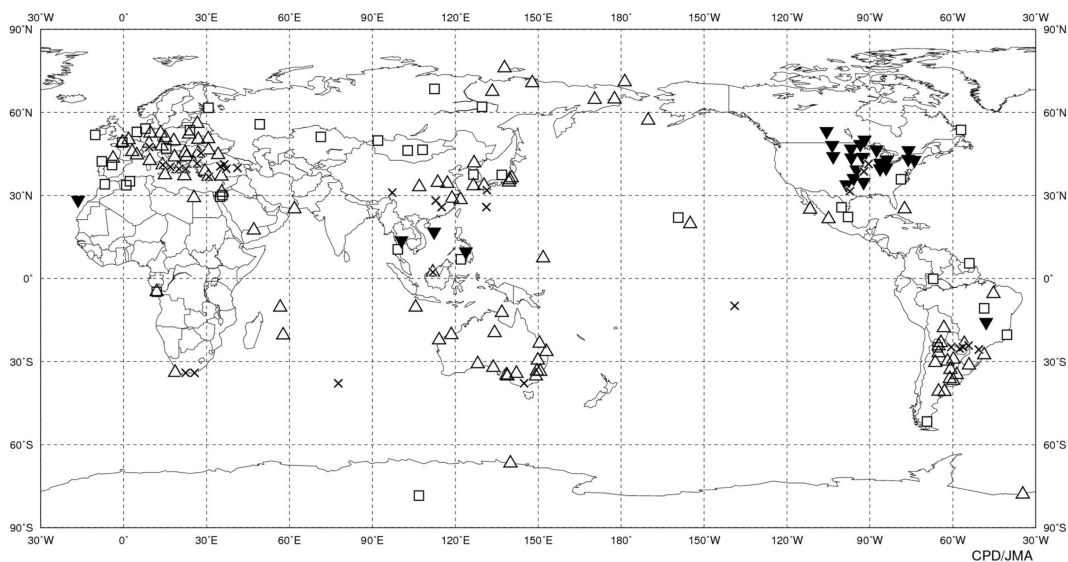
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年4月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合，異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。